



2016 年 3 月

日本における平和ミュージアム・ネットワークの最近の

日本には平和ミュージアムの活動に助言する 2 つの組織がある。「日本平和博物館会議」(AJMP) と「平和のための博物館 日本市民ネットワーク」(JCNMP) とである。比較的大規模な 10 館のミュージアムが加入している AJMP は最近、第二次世界大戦の終結を記念する移動展示のための 1 組のパネルを制作した。その展示のために各加盟者は 6 つの写真からなる標準化されたパネルを制作することを依頼された。AJMP は 2015 年 11 月に第 22 回年次総会が開催され、次のようなトピックが議論されることになっている。(1) ミュージアム管理者およびガイドのための共同のワークショップを開催すること、(2) 日本博物館協会 (JAM) を含む他の博物館組織との協力をいかに行っていくか、(3) 戦後 70 周年以後においていかに戦争を考えるインセンティブを持続的に提供していくか。

JCNMP は 2015 年 10 月 24-25 日、名古屋にて成功裏に第 14 回年次総会を開催した。ピースあいちが主催し、50 名が参加した。ネットワークに加入している 9 団体による報告が行われた。それらの団体はつぎの通りである。中国帰還者連絡会、山梨平和ミュージアム、長崎原爆資料館、岐阜空襲を記録する会、アクティブ・ミュージアム 女たちの戦争と平和資料館、ピースおおさか、原爆の図丸木美術館、ひめゆり平和祈念資料館、およびピースあいち。

INMP 理事の山根和代博士は最近、コスタリカで進行中の平和博物館、デイトン国際平和博物館、オハイオにあるウィルミントン・カレッジの平和資料センターに訪問したことに関して報告を行った。また、愛知県にある豊川海軍工廠および陸軍

造兵廠鷹来製造所の戦争遺跡を保存しようとする市民の努力に関して 2 つの特別報告が行われた。

京都国際平和ミュージアムの名誉館長である安齋育郎教授は、招待講演において、「第二次世界大戦の終結の 70 周年記念の年に平和ミュージアムの役割をあらためて考える」と題する特別報告を行った。教授は、日本の 71 の平和関連博物館に対して行った予備的なアンケート結果を紹介した。



満蒙開拓平和記念館による報告

質問事項は、年間訪問者数、70 周年記念の特別行事、現在争点になっている社会問題に関する基本的施策に関するものである。37 の博物館から回答があった（内訳は公立 23、民間 14）。報告によると、2014 年における 37 博物館すべてへの訪問者数は 53 万 5 千人であり、そのうち 83% が、広島平和記念資料館（13 万人）、長崎原爆資料館（6 万 7 千人）、いわゆる特攻隊に関する展示物を展示する知覧特攻平和会館（60 万人）、沖縄平和祈念館（37 万人）等の公立博物館への訪問者であった。ひめゆり平和祈念資料館への訪問者は 60 万人で、民間の博物館では最高の訪問者数であった。トップ 10 のうちの 5 博物館が原爆関連であった。回答した博物館の 86% が、70 周年記念のた

めの特別プロジェクトを行っていた。1 館を除くすべての博物館が、憲法、国家安全保障、原発、米軍基地など、現在の社会的争点に関する基本的な施策を述べていた。このことは一見すると、多くのミュージアムがその基本理念に基づくプロジェクトを優先していることを示している。しかし、民間を含む多くのミュージアムが、その運営や活動に対する支援となる公的補助を得ることに障害となりうる社会的批判を恐れて、ある種の争点となっている問題を取り上げるのをためらっていることも報告された。

テヘラン平和博物館：
平和のパートナーシップ

この夏、テヘラン平和博物館（TPM）は、地方および国際的組織とともに平和へのパートナーシップの一環として、いくつかの教育的・文化的なイベントに参加した。従来通りに TPM は、8 月 6 日のヒロシマへの原爆投下の 70 周年を記念するのに活発であり、代表者が広島を訪問し、いくつかのイベントに参加した。前年には、イランは平和首長会議へのイランの都市の加盟数において顕著な増加を見た。加盟都市数においてイランはいまや世界第 2 位を占めている。このことは TPM に所属するイラン代表の存在なしには起こり得なかったであろう。



TPM 代表団と松井一實広島市長との会談

TPM 代表団は広島市長の松井一實氏と 8 月 5 日に会見した。平和首長会議の秘書も加わった会議において、平和の文化を形成するのに化学兵器

生存者の役割に焦点を当てた、将来の国際教育プロジェクトなどのいくつかの問題が議論された。



TPM と日本の NGO (MOCT) との例年の共同プロジェクトの 1 つとして、第 2 回「広島イラン愛と平和の映画祭」が 8 月 1-9 日、広島と東京で開かれた。この映画祭は 2 国間の平和と友情を強固なものにすることを目的としている。同時に、TPM の若い会員がテヘラン市を代表して、広島市が主催し 8 月 4-14 日に開かれた「青少年国際平和未来会議」に参加した。今年の会議は、被爆 70 周年を記念して企画されたプロジェクトのなかでも、とりわけ重要なものの 1 つであった。

イラン代表団は同会議の開会セレモニーにおいて、イランにおける平和文化の促進に果たす若者の役割について報告した。参加者は、バンコク、ハノイ、ハノーバー、イズミル、マンチェスター、モンテリオール、サンクトペテルブルク、ヴェロナ、ヴォルゴグラード、ウェリントン、そして広島およびテヘラン等の 23 都市を代表する若者であった。TPM を訪れた著名な訪問者、および他のイベント、たとえば「第 2 回『平和が大切』ワークショップ」 ([the second series of the Peace Counts workshops](#)) や「第 4 回安保理シミュレーション」 ([the fourth UN Security Council simulation](#))、そしてまた「国際平和デー」(9 月 21 日)を記念する一連の行事について知りたい方はウェブサイト ([website](#)) を参照されたい。TPM はまた資格あるインターンを受け入れていることを付言しておきたい。



青少年国際平和未来会議での TPM 代表団

ヒロシマ・デー、ノーモア・ヒロシマ／ノーモア
ナガサキ、ピース・ミュージアム記念企画
(インド・ナグプール)

バルクリシュナ・クルヴェイ博士：平和・軍縮・環境保護、ノーモア・ヒロシマ／ノーモア・ナガサキ、平和ミュージアムのためのインド協会。INMP 理事。

例年通り、わが協会とミュージアムは、8月6-9日、ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下の記念日を祝った。今年、ナグプールから高校生が招待された。同市にあるラーマン科学センターにて、「原爆炸裂の環境への影響」とのテーマで講義と討論が行われた。このセンターは、1930年にノーベル物理学賞を授与されたインド人科学者の名をとって命名されており、インド政府文化省の有名な科学センターである。同時に、ヒロシマ・ナガサキの写真が展示され、一般にも公開された。もう一つのイベントは、チャンドラプールにあるサルダール・パーテル・マハヴィジャラヤ（カレッジ）の環境科学部が企画した。このカレッジは、7200名以上の学生数を誇る中央インドの著名な教育施設である。「核軍縮・環境保護・平和」と題したセミナーには、医学部の学生を含む学部学生および大学院生が参加した。私の報告は、「核戦争防止国際医師会議」（IPPNW）および「社会的責任を果たすための医師団」（PSR）のイラ・ヘルファンドの研究「核戦争による飢饉：20億人が危機にある？」を利用したものであった。インド・パキスタン間の地域的に限定された戦争であっても、

環境への影響は、核の冬の出現に起因して、インド亜大陸の大部分を荒廃させ、南アジアさらには全地球にさえ及ぶであろう。インド・パキスタン間の不信・誤解・憎悪によって、核戦争の危機の勃発は、意図的であれ偶発的であれ、現実的であり、ゆえに特に若者がそうした危機を知ること、とりわけ、核兵器廃絶の努力によってこうした戦争を回避することが最重要の課題である。これらの報告の間、学生も先生も熱心に関心を寄せ、多くの質問が出された。



サルダール・カレッジでのセミナーに参加する学生たち



ナグプールの平和博物館での展示



ラーマン科学センターでのバルクリシュナ・クルヴェイ博士の講演

韓国 平和ミュージアムの展示
— 韓国人ヒバクシャについて

韓国 平和ミュージアム・センター,
Sunny Hong Sun Cha

9月8日に展示「韓国人と日本人ヒバクシャ」が、原爆投下70年を追悼して、韓国平和ミュージアム・センターのSPACE99で催された。それは「韓国人ヒバクシャについて」のプログラムの一つとして企画された。ちょうど韓国独立70周年の年でもある。展示は、韓国が日本に次いで原爆犠牲者が多かったこと、韓国や日本社会、政府が韓国人ヒバクシャを孤立させてきたことを示していた。展示では原爆被害が再現されていて、二次犠牲者のシンボル「Kim Hyung Ryulさんの部屋」やヴェネチア・ビエンナーレ2015の招聘アーティスト Han Hoさんの作品、そして現代メディア・アーティスト Go Chang Seonさんの作品があった。



Kim Hyung Ryulさんの部屋



最終的決断—最後の声明, Go Chang Seon



永遠に光を失った楽園, Han Ho

韓国は日本に次いで、原爆犠牲者が多い国である。犠牲者は約70万人いるが、その約7万人が韓国人で1割を占める。数え切れない韓国人が、日本のひどい植民地政策や強制労働のために、当時日本に住んでいて、広島や長崎の原爆投下の犠牲者となった。原爆は多くの人々を殺戮しただけでなく、今もなお放射能後遺症のために多くの家族を苦しめている。

韓国と日本から6名のヒバクシャがSPACE99に集まった。彼らはそれぞれ自国で反核運動に関わっている人たちだ。Won Jeong-buさん、Lee Gok-jiさん、Kim Bong-daeさん、Han Jeong-soonさん、尾中しんいちさん、そして永原富明さんである。

韓国のヒバクシャは、医学などの手段でサポートしてくれる特別法が国会で成立することを待っている。その間、日本の最高裁は大阪市に対して、韓国人ヒバクシャへの判決を下した。彼らが今日本に住んでいないという理由で、十分な補償をしないのは不当だと判断したのである。



韓国と日本人ヒバクシャのソウルでの話し合い

日本人ヒバクシャは、すべての核を止めることを目指して活動している。日本は原爆や福島原発事故後、反核や平和活動に協力的な国だとみなされるようになってきた。尾中氏は、原子力を用いることの危険を訴え、核の脅威を除くために仲間と共に奮闘していると述べた。永原氏は原発事故の現実とヒバクシャの真実を、次世代に伝える重要性を強調した。この日集まったすべてのヒバクシャは、真実の話を語り「どこに居ようともヒバクシャはヒバクシャなのだ」という言葉を残した。

ウィーン平和ミュージアム 1周年記念

館長 Dr. Ali Ahmad

「死すべき大義はあるが、殺される大義は一つもない」というマハトマ・ガンジーの有名な言葉がある。彼はウィーン平和ミュージアムが最も尊敬する、世界的に有名な英雄の一人である。インドがイギリス支配からの独立を勝ち取るために、ガンジーは非暴力の戦略を用いた。暴力は多くのエネルギーや資源を減らし浪費するが、非暴力は機会を創り、紛争を転換する手段となり得ることを、彼は知っていた。非暴力な社会には平和、共存、調和があり、非暴力は不公平や圧政に対する闘いの、費用のかからない手段である。また、マーティン・ルーサー・キングはアメリカの公民権運動のリーダーで、PMV (ウィーン平和ミュージアム)の平和の英雄の一人だが、次のように語っている。「非暴力とは外的で物理的な暴力を回避するだけでなく、精神の内的暴力をも回避することである。人を撃つことを拒否するだけでなく、人を憎むことも拒否するのだ」と。



Bhavana Mahajan (中央)、Ghusuddin Mir (彼女の左) Ali Ahmad (彼女の右)、Liska Blodgett (左端)

この言葉を胸に、PMVは2016年を「非暴力の年」とすることを、10月8日の1周年記念で公式に発表した。この年は「ベルタ・フォン・ズットナー」の年でもあった。彼女がウィーンで亡くなってからちょうど100年経つからだ。彼女は、女性でノーベル平和賞を受賞した(1905年)最初の人である。彼女のベストセラー小説「武器を捨てよ」(1889年)は平和主義への強力な要望であり、19世紀後半のヨーロッパで最も稀な動向だった。PMVは彼女に敬意を表し、ウィーンのブルート通り(Blutgasse)の展示ホールの壁に彼女を展示してきた。



ウィーン ブルート通りの「平和の窓」

PMVは、この世界をより良くしようと尽力した人々の名をさらに挙げています。興味深いことに、非暴力はPMVの平和の英雄たちを結ぶ糸なのだ。PMV委員会のメンバーで、このイベントの基調講演をしたBhavana Mahajanさんは、非暴力こそ、凝り固まった紛争を解決する現実的手法だと強調した。彼女はインドからの平和研究者として、ガンジーの非暴力手法からの学びや、世界のいろんな場の活動家たちがユーモア、誠実さ、動員力など独自の方法で、いかに厳しい体制を克服してきたかを話した。

PMVの創設者Liska Blodgettさんは、メディアでは戦争が平和を凌駕していると懸念を示し、学校や大学で、平和の英雄の人生を通して平和教育をする重要性を強調した。また、アフガニスタンの草の根活動家で平和構築に貢献したGhusuddin Mirさんに「平和の英雄」の称号を与えたいと述べた。Mirさんは“Bano”というヨーロッパでのアフガニスタン女性雑誌の編集者で、避難民や孤児の人権の提唱者である。その雑誌を通して、彼はヨーロッパでアフガニスタン難民

の代弁者であり続け、自国でも 20 年以上にわたって孤児院を援助してきたのである。

PMV の館長は PMV の長期ビジョン—5000 人の「平和の英雄」計画と 2020 年までに 20 の都市へ「平和の窓」を拡げていくこと—を目指すと述べた。



祝辞を述べる INMP の Petra Keppler さん



オーストリアの二つの平和ミュージアム

INMP 委員 Gerard Lössbroek

夏休み中 8 月、私は二つの興味深いオーストリアの平和ミュージアムを訪問した。ウィーン平和ミュージアム(PMV)と、オーストリア北部ヴォルフスエック(Wolfsegg)にある第 1 オーストリア平和ミュージアム(First Austrian Peace Mesuem)である。

ウィーン平和ミュージアムは 2014 年に開館し、都市中心部のシュテファン大聖堂やモーツァルトハウスなど、旅行者にとって魅力的なビルの近くに在る。このミュージアムは「平和の窓」プロジェクトで独創的である。近隣の通りにある店やレストランなどの窓、特にミュージアムの在るブルート通り(Blutgasse)に平和の英雄を展示しているのだ。英語とドイツ語で肖像と略歴を展示している。最も大きい展示は、ウィーンの卓越したヒロイン、ベルタ・フォン・ズットナーである。



1905 年にノーベル平和賞を受賞した初の女性、ベルタ・フォン・ズットナー (絵：安齋育郎博士)

PMV は平和の像をもっと多くの通りに拡げることがを計画している。私は訪問中、親切で平和を愛する二人の PMV 館員に出会った。アフガニスタン出身で、今はオーストリア在住の人と、ケニヤから 1 か月間インターンとしてやってきた人だ。

オーストリアで最初に開館したオーストリア平和ミュージアムは、より長い歴史を有している。1993 年に開館したが、その年に私は来館し、それが私の初めての平和ミュージアム訪問だった。そこで創立館長 Franz Deutsch さん(1929-2009)と奥さんの Trude さんに出会った。(奥さんとは最近の旅行でも、幸運なことに再会することができた。)開館以来、この小さな平和ミュージアムは、地域の文化遺産ミュージアムと建物を分かち合っている。その場自身が平和教育施設になっているのだ。Franz Deutsch さんが 1993 年に創った美しい装丁のバイリンガル(独・英)ブックレット「Ein Friedensmuseum—A Peace Museum」がある。彼の後継者は Jo Nagl さんで、二つのミュージアムを管理しているが、熱心で情報発信の豊かな人である。



ヴォルフスエックの第 1 オーストリア平和ミュージアム

ミュージアムは、平和教育の新たな道を探っている。例えば 2015 年 6 月 13 日には、マニング(Manning)にある Bucherhof 農場ミュージアムと

協力して、ヴォルフスエック「平和の道」のオープニングを祝った。私はウィーン平和ミュージアムのインターンでケニヤ出身の Davidson Akhonya さんと共に訪れた。彼はメノ派教神学者で Mt. Elgon Peace Initiative の創立ディレクターである。彼はウィーンやウルフゼックなどでの経験を通して将来、西ケニヤでエルゴン平和ミュージアムを立ち上げることを楽しみにしているのだ。

I-LAP 平和博物館(イスラマバード、パキスタン) 2015 年平和構築夏季インターンシップ・プログラム

「平和のための汗を多く流すほど戦争で流れる血は少なくなる！」

貧困撲滅異教徒間連盟 (I-LAP) は、2004 年に創設された非営利団体であり、1961 年のボランティア社会福祉機関法の下で登録されている。パキスタンのイスラマバードに拠点を置き、宗教的寛容、平和、異教徒間の調和と地球上のあらゆる宗教への尊重の促進に貢献しており、その主な目的は、信条や外観、教義に関わらず過小評価されている人民を助成し、彼らの生活における平和と異教徒間調和の重要性を強調しながらも経済的に力をつけさせることである。

平和構築活動：

1. I-LAP は、2008 年、初の異教徒平和博物館をパキスタンに創設
2. I-LAP の平和図書館は、全ての宗教的信条に関する書籍を備えており宗教比較学を推進
3. I-LAP は、若者のエネルギーを平和構築活動に注ぐことを目指す「青年平和クラブ」を発足。人間性を引き出し、閉鎖的社会、異教間内乱、宗教的不寛容、文化的分裂の概念を回避するような平和的環境、異教間調和、宗教的寛容、文化的理解、その他の課題のために作られた。

I-LAP では、学生らにインターンシップとして、地域社会レベルでの平和や異教徒間調和の活動に参加する機会を与えている。今年のインターンには以下のテーマにおける研修が行われ、今年のプログラムとして選ばれたイスラマバードの二つの

キリスト教コミュニティにも同様のものを伝えるよう求められた。

- 平和的共存のための平和と異教徒間調和
- 薬物乱用—生活における平和と充実感の欠如
- 市民教育—権利と義務
- 労働倫理—平和な労働環境を維持する

インターンらはまた、下記の組織を訪れ、生活のなかで平穏が欠如している人々の苦痛や悲嘆についてより深く理解した。



平和構築のためのインターンシップ・プログラムの参加者と I-LAP 会長サジド・イシャクと事務局長ナジア・アンサリ、チーフゲスト、ゲストスピーカー

- 聖ヨセフ・ホスпис—血縁者に見放された人達の安全な避難場所
- サニー・トラスト・インターナショナル (STI) —薬物乱用者のためのリハビリセンター (NPO)
- サイド卿記念ソサエティーインドのアーリーガル大学の卒業生によって設立。人格形成、平和、異教徒間調和を重視している。

このインターンシップ・プログラムは、パキスタンの独立記念日 (8 月 14 日) のある 8 月に実施され、そのため行われたすべての活動は祝賀の精神にあふれていた。

インターンらにとって、この平和構築のためのインターンシップ・プログラムは大変有益であり、生活におけるあらゆる面において平和維持への努力が欠如しているために苦しむ人々の苦難に気づき、人生を異なる角度から見る機会が与えられたと感じた。特に、ソーシャル・メディアで見ただ

け、あるいは聞いたことがあるだけの場所を目の当たりにし、こうした様々な組織やコミュニティの訪問は目を見張るような経験であった。自らがおかれている環境の問題を見ずに、すべてが完璧であると感じている架空の世界に生きているということに気付くことになった。I-LAP インターンシップ・プログラムは、修了証と賞の授与式典で締めくくられた。



I-LAP 平和博物館での修了証授与



聖ヨセフ・ホスピスにて

イタリア・ボローニャ国際平和主義ポスター・ドキュメンテーション・センター (CDMPI)

1993年にボローニャで設立された CDMPI (Centro di Documentazione del Manifesto Pacifista Internazionale) は、1985年の第一回展覧会よりポスターを収集してきた。現在、約 5000 の平和に関するポスターを収蔵しており、その分野では世界最大 (2010年オックスフォード国際平和事典参照) である。

1985年から現在まで、イタリアだけではなくスイスやドイツなど様々な地域の大学や自治体、また政治・文化・宗教団体などの主催による 240 回以上のポスター展示会が行われてきた。長年にわたり、ポスターは市政機関から学校に至るまで多くの場所で展示されている。学校での展示会では、教師の指導のもと、生徒らが論文や動画、CD、絵、ポスターなどを作成することもできた。

CDMPI の主な活動は、ポスターや本、パンフレット、新聞、リーフレット、論文、書類、写真、ビデオ、絵葉書など平和に関するあらゆる物の収集、保管、普及である。センターではまた、16 のテーマに基づいた平和ポスター移動展示会を行った。いくつかの展示会では、訪問者のためにガイドがついた。

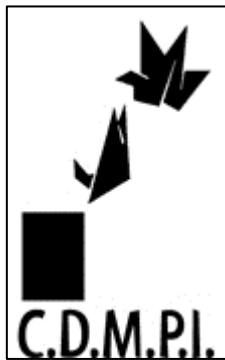
センターでは 30 周年を記念して、240 回全展示会のリストを中心にそれぞれの側を 10 枚のポスターで囲んだ「平和の種を蒔く」というポスターを制作した。CDMPI は 2002 年より平和のための博物館国際ネットワーク (INMP) のメンバーである。

ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン氏とジョイス・アプセル氏が序文を寄せたヴィットリオ・パロッチェティとフランチェスコ・プリエーゼの著書「ポスターは語る…戦争を無くす多くの方法 (原題: MANIFESTI RACCONTANO...le molte vie per chiudere con la guerra)」が、2014年12月に出版された。2015年末には英語版も出版となる。以下、序文からの引用: 「平和ポスターは、平和の文化推進のため、また戦争と暴力の文化の様々な側面に対抗するために利用されている広範囲の手段の中でも特別な位置を占めている。…あらゆる感情をも伴って…従って情報とともに彼らは刺激を与え続けている」「本書は、…誰よりも社会歴史学者、平和活動家、教育者、文化分析家などに高く評価されるであろう他に類を見ない最も有用な資料である。…大変重要で待ち望まれた文書でありガイドである」「世界のコミュニケーションにおけるソーシャル・メディアなどの革新にも関わらず、こうした派手とはいえないポスターが極めて重要な役割を担い続けており、この素晴ら

しい著書がそれを当然のごとく称賛しているの
ある」

伊語版（カラー200 ページ、66 図、20 ユーロ）
の購入、英語版の注文は[こちら](#)にご連絡ください。
CDMPI の詳細は[こちら](#)。

新旧にかかわらず平和ポスターを CDMPI まで
ぜひお送りください。



M.K.ガンジーの家、マニ・バーヴァン (1917-1934)

**平和のモニュメント：
戦争ではなく愛を作る 10 の場所**

トラベル・ライターのカリス・リードビーター
が、この日公告されたノーベル平和賞受賞者を祝
し、独創的で刺激的な記事を 10 月 9 日のデイリー
テレグラフ新聞（ロンドン）の旅行欄にこの遊び
心あふれるタイトルで発表した。彼の記事によれば、
歴史は「最前線の衝突や対立の発想をもって
書かれがち」であり、今年だけでもイギリスの 3
つの大きな戦争の記念日を迎える。アジャンク
ールの戦い（1415 年）、ワーテルローの戦い（1815
年）、第二次イーペルの戦い（1915 年）である。

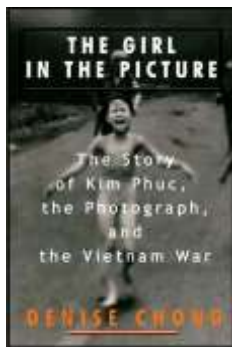
これらの戦争の記憶は、博物館や記念碑、ビジタ
ーセンターや出版物、特に新聞の長い記事で徹底
的にたどってきた。彼はこう続ける、「しかし、
激しい銃撃をやめる動機となる…戦争を超えて平
和を祝うもっと穏やかな記念碑はどこにあるの
だろう…？」ノーベル平和賞受賞者たちが主役と
なるのは、オスロのノーベル平和センターやスト
ックホルムのノーベル博物館であると彼は述べ、「鷹
よりは鳩になりたい」者たちの興味を引くであろ
う他の 8 か所をリストに挙げている。ブラッドフ
ォード、ゲルニカ、ウィーンの平和博物館、国立
長崎原爆死没者追悼平和祈念館、ムンバイにある
ガンジーの家マニ・バーヴァン、レイキャビク
のイマジン・ピース・タワーとアムステルダムのヒ
ルトンホテル（どちらもジョン・レノンとヨーコ・
オノに関連）、そして長く言われ続けているのに
実現されていないアムステルダムの世界平和博物
館だ。このように全国紙に平和博物館や平和モニ
ュメントがとりあげられるのは稀である。記事の
全文は[ここ](#)で読める。

**「ベトナム戦争における報道」
ワシントン DC、ニュージウム**

ベトナム戦争勃発 50 周年を記念する大きな展
覧会、「ベトナム戦争における報道」が 2016 年 9
月までワシントン DC のニュージウムで開催され
ます。国内世論が大きく分裂しているアメリカで、
史上初のテレビで生放送されたベトナム戦争はど
のように報道されたかについて考える展示です。
現物資料、写真画像、映像、インタビュー、新聞
見出しなど多くの資料の展示のほかには、反戦の
曲を展示室やウェブサイトで紹介する「ベトナム
・ミュージック・マンデーズ」というシリーズ
も、2015 年 5 月 4 日から毎週月曜日に行っていま
す。ベトナム戦時中、戦争と徴兵に対する非暴力
的不服従に関わる作品は何百曲も録音されました
が、その中から選ばれたアメリカで 1963 年から
1973 年の間に出された 40 曲が対象となります。
現在まで、ジョーン・バエズの「サイゴンの花嫁」、
ボブ・ディランの「戦争の親玉」、ジミ・ヘンド
リックスの「マシン・ガン」、バリー・マクガイ
ヤの「明日なき世界」、ピート・シーガーの「腰

まで泥まみれ」などの歌が放送されました。各曲の意義や特色についての解説は[ウェブサイト](#)に掲載されています。

一方ベトナムでは、現在、ベトナム戦争終結 40周年を祝う記念式やパレードなどが多く行われ、戦争が再び注目を集めています。おそらくこの戦争のもっとも有名な写真を撮影した写真報道家ニック・ウトは、その写真を最近ホーチミン市の戦争証跡博物館に贈与しました。ナパーム弾による爆撃から逃れる 9 歳の女の子、キム・フックを写した 1972 年の作品「戦争の恐怖」は翌年 1973 年にピューリッツァー賞を受賞、戦局を大きく変えたと言われていています。フックはカナダに移民して、戦争で苦しんでいる子供たちを助けるためにキム財団(Kim Foundation International)を設立しました。シリアの戦争の結果、命がけで祖国を逃れた何百万人の難民たちの苦しみは、現代のわれわれにその悲劇的現実を毎日のように突き付けてきます。トルコの海岸に打ち上げられた 3 歳の男の子アラン・クルディの遺体を写した悲痛な写真は、再び世界を変える写真の力を明らかにしました。これ以上の悲惨な事態を防ぐために、キム・フックはカナダなど、世界の政府にシリア難民を受け入れるように訴えています。詳細は[こちら](#)にあります。



第一次世界大戦を映画化 —平和と自由の瞥見

INMP プロジェクト・コンサルタント
マルテン・ヴァン・ハルテン (アムステルダム)

2015 年 10 月 9 日 INMP は、ハーグの事務局の指導のもとで行ったウィルバー・H・ダーボロー

の第一次世界大戦のドキュメンタリー映画「ドイツ戦線にて (On the Firing Line with the Germans)」(1915 年)を修復する国際キャンペーンの成功を祝った。フィリップ・カルリの音楽がつけられたこの類まれな映画は、アメリカでの初公開後 100 年たったイタリア、ポルデノーネでの第 34 回無声映画祭で公開された。ヴェルディ・シアターでの上映後、平和博物館、映画研究者や保管者、教育者や NGO、特に平和と自由を求める国際婦人連盟 (WILPF) の素晴らしい協力について専門家らが振り返った。

ポルデノーネの無声映画祭は、毎年、世界中の何百という古い映画の再発見と修復を祝っている。イタリアの第一次世界大戦 (1915-1918) 参戦 100 周年にあたる第 34 回では、ディレクターのデヴィッド・ロビンソンがダーボローの映画をプログラムに入れ、米国議会図書館チームがその映画の修復に熱心に取り組み、その完成を間に合わせた。映画祭での第一次世界大戦の記憶部門には、芸術家としていくらかの自由を残したとはいえ戦争のプロパガンダとして過去の映画が多く使われた事実から外れなかったイタリアの映画の草分けルカ・カメリオの様々な歴史映画も含まれていた。この点において、ダーボローの映画は、独立したジャーナリズムの最初の例として卓越している。「ダーボローは映画を手掛けた経験のない写真家にすぎなかった」と映画研究者のジム・カステランは解説した。「彼は、シカゴのビジネスマンらが、特別の『戦争映画シンジケート』を作りビジネス投資としての映画プロジェクトに出資するよう勧誘し、自由に撮影旅行を記録できるようにした。そうして、ジャーナリストとしてアメリカの観衆が興味を抱くであろうものを撮影したいという気持ちで、ドイツ軍検閲の限界を押し広げながら、ドイツ軍のいた東戦線とドイツの市民生活の中での人々や出来事の撮影を成し遂げた。

この人間の興味という視点から、ダーボローは、現ポーランドの破壊規模、ワルシャワ占領 (ユダヤ人ゲットーの類を見ない画像とともに) など、そして「The Price」—破壊された故郷へ帰っていく数えきれない難民たちの映像を捉えた。この点で、欧州列強間に起こった戦争の破滅的な影響を視覚化した、1902 年という早い時期にポーランド

系ユダヤ人慈善家ジャン・ブロッホがルツェルンに作った初の戦争と平和博物館とこの映画は類似している。

女性、平和、自由

映画以前のブロッホの博物館のように、ダーボローの戦争ドキュメンタリーの中には特に「ベルリンにてシカゴのミス・ジェーン・アダムスに会おう (Meet Miss Jane Addams from Chicago in Berlin)」の断片に平和をまた垣間見ることができる。彼の観衆が新聞で読んだように、ジェーン・アダムスとアレッタ・ジェイコブスは特使であり、ハーグ女性会議 (1915 年) から任命されて欧州の政治リーダーらと合衆国大統領ウッドロー・ウィルソンに会い戦争終結の仲介を始めるよう要請した。委員会では、ホープ・エリザベス・メイ教授 (セントラル・ミシガン大学) が、この映像は女性・平和・安全保障に関する国際法 (国連安保理決議 1325 号) に関する教訓をいかに視覚化しているかを明らかにした。これは実際、ニューヨークのカーネギー国際関係倫理協会が開催したグローバル・エシックス・デー (2015 年 10 月 16 日) のために行われた。その他の例は、バーチャル平和博物館「[ベルタ・フォン・ズットナー・プロジェクト](#)」でも見ることができる。



ジェーン・アダムス、アリス・ハミルトン、アレッタ・ジェイコブス、ウィルバー・ダーボローとともにベルリンにて (彼の映画スチール写真)

フォローアップ・イニシアチブとして、WILPF イタリアの名誉会長ジョヴァンナ・パガーニ教授が、今日の女性の権利と自由に関する教育のための映画上映を行う予定だ。こうした動きと同時に、特に 1915 年にイタリア特使であり、先駆的なフ

アクション・デザイナーでもあった初期イタリア映画界での女性の新しい役割を作ったローザ・ジェノーニに関するものなど、さらなる歴史映画資料の探求が行われる。DVD やこの映画を使用した教育プログラムの情報は、INMP 事務局で入手可能。映画研究者ロン・ヴァン・ドッペレンのブログも[こちらをクリック](#)してご覧ください。



映画歴史学者ジム・カステラン、ロン・ヴァン・ドッペレン、マルテン・ヴァン・ハルテン ポルデノーネにて

行動のための映画 Films For Action

個人及び国際的レベルの両方において、ドキュメンタリーは認識を高め、意識の変革的変化をもたらす偉大な力を持つことはよく知られている。

「Films For Action」は「世界を変えようとする人々のためのコミュニティベースの学びの図書館でありニュースセンターでもある」と、自らを説明している。過去 8 年間に、何百という社会改革ドキュメンタリー (2 分間~2 時間のもの) が再生され、3000 本以上の映画やビデオを現地で見ることができる。行動主義から女性など、テーマ別で検索することも可能。40 カテゴリーの中には、動物の権利、気候変動、グローバル化、人権、警察国家、戦争と平和などが含まれる。最近、「世界を変えるのに使える 100 本のドキュメンタリー」というコレクションが作られた。その品質や内容、

好ましい変化を生み出せる可能性によって選択された。また、オンラインで自由に見たり借りたりすることが可能なことも選ばれた理由である。詳細は、www.filmsforaction.org へ。

トラウマとなる歴史的事実の現在への影響

INMP 役員エリック・ソーメルズ

オランダ国立戦争・ホロコースト・大虐殺研究所 (NIOD) が、第二次世界大戦の歴史とその影響を専門とした記録研究所として設立された。初めに、NIOD は、オランダ国内や国外領地の第二次世界大戦に関する研究に焦点をあてている。続いて、時代と地理という観点においてその分野を広げている。この広範囲に及ぶ専門知識を利用して、NIOD は欧州とアジアを中心に国際的な方向性を選択した。今日の NIOD の目的は、市民が強い関心を持って行う独立した研究を通して世界中の戦争の暴力との関係性を可視化し、暴力の長期にわたる影響は国境でとどまらないことを示すことにある。NIOD はまた、寛容や世界平和、変化する正義に対する疑問など重大な問題について公の場での議論において社会に関わることを望んでいる。オランダにおける国内の多くの戦争と抵抗の博物館の活動をまとめるなかで、当研究所は重要な役割を担っている。



「歌う、私は死に直面する、戦闘のさなかに、ナイチンゲールの歌い声か銃撃にかき消され」
(ミゲル・ヘルナンデス) マドリード、アルムデナ墓地
共和国の日、ジュアンヌ・ヴァン・ウェルコム撮影

アムステルダムを中心地の有名な歴史的運河のひとつに位置する NIOD の建物のエントランス・ホールは、会期のある展示のための場所として使われている。今年初め、オランダのアーティストで

あるジュアンヌ・ヴァン・ウェルコムによってフランコ独裁政権の苦い遺産をヴィジュアル・ストーリーにした「Memoria Histórica」が開催された。スペイン内戦の間、そしてその後のフランコ將軍による独裁下の数年間、何千人ものスペイン国民が、政治的あるいは宗教的見解のために殺害された。現在、この時代を生き抜いた血縁者らは、家族に何が起こったのか彼らがどこに埋葬されているかについて何も知らされてはいない。毎週木曜、彼らはスペインの首都マドリードのプエルタ・デル・ソル広場に集まる。亡くなった家族の写真とともにプラカードを掲げ、彼らは真実と正義、認識を求める。

ジュアンヌ・ヴァン・ウェルコムは、「[Memoria Histórica](#)」で、軽視されているフランコの苦い遺産と殺害された何千人もの市民について認識を高めることを目的としている。「マドリードの中央広場であるプエルタ・デル・ソル広場で毎週行われているデモに私は参加した」ヴァン・ウェルコムは言う。「アルゼンチンの 5 月広場の母たちと同様、この家族たちは真実と正義を探している。私は記録し、聞き、尋ね、このドラマを思い浮かべようとしている」このアーティストの取り組みは NIOD の目的と一致している。トラウマとなる歴史的事実の現在への影響とは何なのか？アムステルダムで展示会が成功し、NIOD は他の国際的な会場での展示を望んでいる。ゲルニカの平和博物館が、当然ながら第一候補である。2016 年の春には、INMP 関連のパートナーとの協力で実りのある結果が得られることを願う。詳細は[こちらに連絡](#)、または[ホームページ](#)まで。



曾祖父フランシスコ・ペレズ・ベニテスを誇りに思うマドリード、アルムデナ墓地、スペイン共和国の日
ジュアンヌ・ヴァン・ウェルコム撮影

政治的迫害犠牲者のための博物館（モンゴル）

モンゴル国立大学、Oyunsuren Damdinsuren（講師）と Tsogjavkhlán Tuvshinjargal（学生）

「政治的迫害犠牲者のための博物館」は、モンゴルの首都ウランバートルの中心部に位置している。このあまり知られていない博物館は、「反革命派」を排除する強引な政治活動であった 1930 年代の共産主義者粛清を記録した一連の展示が保管されている。この作戦の間、何千人もの知識人、遊牧民、仏僧らが逮捕ののち裁判にかけられ、投獄されるか大抵の場合は銃殺された。

放置されていたこの博物館の木造建造物は、ウランバートルで最古のもののひとつである。これはかつてペルジディーン・ゲンデン前首相の住居だったが、彼はヨシフ・スターリンの粛清実行命令を拒否し 1937 年にモスクワでソ連に処刑された。スターリンに見出されたより強力的な傀儡であるチョイバルサン司令官は、2 年の間に 21,000 人の同胞を抹殺した。これは特に、当時のモンゴル人口がたった 70 万人であったこと考えると非常に大きな数字である。



ペルジディーン・ゲンデン、モンゴル首相(1932-1936)

ゲンデンの娘であるツェレンデュラムの主導により、この政治的迫害犠牲者らに捧げた小さな博物館は 1996 年に開館した。全展示は 7 部屋に及ぶ。最も興味深い展示は、机や電話、タイプライター、時計、カレンダーなどが置かれたゲンデン首相のオフィスで、まるで今にも彼が入ってきそうである。博物館にはまた、モンゴル人のスターリン信奉者らによるスターリン主義粛清の否定できない

証拠、弾痕のある頭蓋骨を見ることができる。実際、約 600 のこうした頭蓋骨は、2003 年、博物館から数キロ離れた場所で見つかった。1996 年、モンゴル議会は 9 月 10 日を「政治的迫害者記念日」とすることを宣言した。というのも 1937 年のこの日に起こった大量逮捕が大粛清の始まりとなったからである。また 1998 年、議会は「政治犠牲者の名誉回復と補償法」を可決した。

ほとんどのモンゴル人家族が政治的迫害や共産主義者粛清の影響を受けているにも関わらず、このことは進んで議論されるテーマではない。特に若者など、いまだに歴史の影が宿るこの小さな博物館の存在を知っている者は少ない。多くのモンゴル人が、独立を守るために払わなければならない代償だと信じている。しかし、その代償はあまりに大きく、私たちがそれを決して忘れることはないだろう。



モンゴル、政治的迫害犠牲者博物館

平和の文化を広める：国際平和都市

国際平和都市の組織は、5 大陸 40 カ国 110 の平和都市に広がっている。平和のための博物館がある都市もあれば、不健全な傾向の拡散を止めたり学校を建てたり非暴力を教えるといった分野に取り組む草の根組織がある都市もある。ロサンゼルスからブエノスアイレス、トロント、ブジュンブラ、ハーグにベルン、世界中の市民が自らのコミュニティを平和に貢献する都市だと定義している。国際平和都市に認められた平和都市は、暴力に対抗する方向に歩み平和の文化を育てる努力をして

いる地域共同体である。課題がそれぞれ異なるため、平和の文化をどう獲得するかは各共同体の市民らによって決定、実行されなければならない。しかしながら、平和の文化の指針は存在する。国連決議 A/RES/52/13 では、平和の文化について以下のように定義している。個人、団体、国家間の対話や交渉を通して問題を解決するために、その根本的原因に対処することで暴力を拒絶し紛争を防止するという価値観、姿勢、言動、そして生き方である。

平和と非暴力を普及するために、私たちは以下の努力を行う

- 教育を通じた平和の文化の育成
- 持続可能な経済的および社会的発展の促進
- 全人権尊重の促進
- 男女平等の保証
- 民主的参画の育成
- 相互理解、寛容、連帯の向上
- 参加型コミュニケーションと情報や知識の共有の支援
- 国際的な平和と安全保障の促進

平和の文化に対するユネスコ宣言に加え、黄金律（「して欲しいことを人にする」など多数述べられている）によりコミュニティの多様性、非暴力の哲学、宗教、個人的信条などに対する寛容と尊重などの普遍的宣言を規定している。国際平和都市の組織は、平和都市の連合として、世界中の平和イニシアチブ都市の奨励と都市間交流によって統一された価値観としての平和の普及を模索している。国際平和都市は、非営利の免税団体であり、世界的な平和都市運動の持続、普及、奨励に努めている。平和はただの希望ではなく、正義であり私達の運命に対する正当な権利でもある。私たちにはその価値があり、またそれが必要なのだ。安全、繁栄、そして生活の質、平和とは人々の意見が一致した価値観である。私たちの都市や村を平和の言葉のもとに定義するため、この世界的な草の根運動にあなたの尊い力をお貸しください。詳しくはこちらの[ホームページ](http://www.internationalcitiesofpeace.org/)まで。

<http://www.internationalcitiesofpeace.org/>



コンゴ民主共和国、コルウェジにて戦争と暴力で孤児になった何百人もの子供たちのために診療所や学校が建てられている



メキシコ、シワタネホにて。教室の改装や貧しい子供達の昼食提供をする「米と豆」プログラムで何千人もの子供たちがその恩恵を受けている

私たちが INMP に加入する理由

英国 クライブ・バレット：INMP 理事

博物館の館長は時に「なぜ INMP に加入しないといけないのか？どんなメリットがあるのか？」と尋ねます。この 2 週間のブラッドフォード平和博物館のことをお伝えしましょう。

・スペインの INMP メンバーとこれから開催する難民問題—現在ヨーロッパにおける一大事—に関する展覧会の資料を貸し借りする件でやり取りをしてきました。

・日本の INMP メンバーが来年ブラッドフォード平和博物館で働く研修生を紹介してきました

・スウェーデンの INMP メンバーが来館し、EU から助成を受け博物館スタッフを交流する共同プロジェクトを企画する相談をしました。

・アメリカの INMP メンバーから、近々出版する平和博物館に関する本に載せるためブラッドフォード平和博物館の記事について問い合わせがありました。

・韓国の INMP メンバーから平和博物館に関する本の編纂のためにブラッドフォード平和博物館のことを質問されました。

(私が人権とブラッドフォード平和博物館のことを執筆したパキスタンのメンバーの著書が出版されることを思い出しました)

もちろんこのニューズレターもこの平和博物館や他の館のしていることを知らせてくれています。これらのつながりからブラッドフォード平和博物館に利する機会がもたらされるかもしれないとオランダとオーストリアのメンバーと話しあいました。次の INMP 会議の開催を待たずとも、上記全ての素晴らしいことは起こったのです。

ネットワークはあなたが作るものです。INMP で何ができるかは事務所ではなくあなた次第です。あなたの博物館のためにどう INMP を活用しますか？

ブラッドフォード平和博物館の理事長クライブ・バレット神父 (博士) の連絡先 [here](#)

ブラッドフォード平和博物館のサイト [here](#)



福島プロジェクトチーム、移動展覧会を計画中

安齋育郎、立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長、INMP 理事

安齋育郎教授が率いる「福島プロジェクトチーム」は 3.11 福島原発事故の影響を解明し被災した地域の人々がより安全にくらすための手助けをしに月一度福島を訪問し調査を行っています。

立命館大学国際平和ミュージアムと連携し 3・11 福島原発事故に関する特別展、講演会、ワークショップを開催してきた安齋教授は、現在新たなフクシマ原発事故をテーマにした巡回写真展を計画中です。これは見学者に原発災害の目に見えない大切なことを理解してもらえるような視覚に訴えた展覧会です。

放射線防護学を専門とする安齋教授は、原子物理学者、健康教育学者、2 名の放射能測定技術者と共に (彼らは時に「5 レンジャー」とも呼ばれる) 保育園、小中学校、公共施設、避難者の仮設住宅、個人宅を訪問してきました。昨年 10 月半ばには、チームは福島第一原発から 20~30 キロ圏内に位置し、現在「帰宅困難区域」に指定されている浪江町津島地区の調査に入りました。米国ウェブスター大学の教授で INMP 理事であるロイ・タマシロ博士が 10 月 15 日から 17 日にかけて調査に同行しました。

浪江町の全住民は事故発生後すぐに避難しましたが、その後福島県内外での避難生活を余儀なくされています。多くの町民は故郷の原状回復を強く願っており、中には東京電力と日本国政府を相手取って裁判を起こしている人々もいます。福島プロジェクトチームは住民の要望に応じて放射能の測定を行い、環境汚染の深刻さ具合を評価しました。その結果津島地区の現在の放射線レベルは毎時 5~7 μ Sv で、被爆前の自然放射線レベルのおよそ 100 倍であることが判明しました。土壌は半減期が 30 年のセシウム 137 を含む放射性物質で汚染され、針葉樹林で採取された土壌サンプルの放射能は 1 キログラム当たり 25 万ベクレルもありました。津島地区の 95% 以上は除染が不可能な森林でおおわれています。安齋教授は浪江町民の訴訟の弁護団に対して 11 月半ばの調査結果に基

づいた講義を予定しており、裁判は新たな局面に入っています。福島第一原発から放出された放射能雲の流れに沿って高濃度に汚染された地域では今なお非常に深刻な状況が続いていることは明白です。



浪江町の土壌を採取。調査の様子がテレビ局に取材された

平和博物館が安齋教授の 福島プロジェクトから学ぶもの

ロイ・タマシロ：ウェブスター大学教授、
INMP 理事
(2015年10月17日、福島)

私は安齋博士と彼の調査チーム「5 レンジャー」とともに福島県を訪問し、福島プロジェクトの活動を見学し取材するという稀有の機会を得た。学校、住宅、公園や福島第一原発から約60キロ圏内の福島市、35キロ圏内の南相馬市、立ち入り禁止地域となっている20キロ圏内の浪江町津島地区のいくつかの場所で放射線レベルを測定した。このツアーの映像は [here](#) ここから見られる。



浪江町の元住民と打ち合わせをする安齋教授

福島における「5 レンジャー」の任務は、3.11 原発事故で被災した人々にとって非常に有益なものである。私はメンバーのチームワークのよさ、その情熱的な働きぶりにとりわけ感動した。彼らの行いはすべての平和活動家を奮起させるロールモデルである。損害を嘆き、うち続く苦難に耐えるためだけではない。もっと大切なのは、希望を取り戻し、傷を癒し、対立を解き、被災地と世界中に連なるネットワークに信頼と正義を築きなおすこと、それを目指して、個人として、チームとして、コミュニティとして私たちは協働することが出来ることを彼らの活動は教えてくれた。

立命館大学国際平和ミュージアムは福島プロジェクトの調査を通じて得られた最新情報を展示しようとして計画しているが、これは、どこの平和博物館でも、現在も継続されている平和創造や信頼の再構築、正義の回復を目指した手本とすべき実践活動紹介を新たに展示に加えることを示唆している。巡回写真展はまた平和博物館が場所を問わず平和教育、情報発信の対象を広げうることを表している。



福島での放射能測定作業。写真提供：谷川佳子

編集ノート

編集委員メンバーは安齋育郎、ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン、ロバート・コワルチェック、山根和代です。翻訳は谷川佳子さん、竹田敦子さん、寺沢京子さん、メリド・ハインズさんが担当して下さいました。

INMP の会員そしてニューズレターの読者のみなさん、随時ニュースなどの投稿をお願いします。原稿は随時、英語で 500 単語以内、写真は 1-3 枚。あなたの名前と所属を書いて、news@inmp.net に送付してください。英語で書くことに困難がある場合には下記にご相談ください。

平和のための博物館
国際ネットワーク
(International Network of
Museums for Peace, INMP)

を支え、さらに発展させるために、新たな会員を迎え入れることが期待されています。現在の年会費は 2000 円、日本での会員事務は、下記の「安齋科学・平和事務所」が代行しています。

INMP 日本事務局：
安齋科学・平和事務所 (ASAP)
※事務局は、月・水・金の午後 13 時～17 時 30 分オープンしています。

電話：075-741-7267 FAX:075-741-7282

北アイルランド (イギリス)



特別先取り情報！

第 9 回国際平和博物館会議は
2017 年 4 月 10 日～13 日、
北アイルランドのベルファストで

平和のための博物館国際ネットワーク (INMP) の国際会議委員会は、次回国際会議の開催地について、ベルファスト (北アイルランド) とウプサラ (スウェーデン) を候補地として時間をかけて検討してきましたが、この程、前者において来年 (2017 年) 4 月に開催することが決まりました。詳細については次号でお知らせしますが、とりあえず、第 1 報として報告します。山根和代 INMP 執行理事および安齋育郎諮問理事も国際会議委員として決定過程に関わってきました。

ベルファストは、1998 年にイギリスとアイルランドの紛争を調停するための「ベルファスト合意」が結ばれた都市として知られ、平和発信都市として平和博物館運動の発展に貢献することが期待されています。北アイルランドは、長い間紛争を経験した歴史を持っていますが、1976 年には、マイレッド・コリガン・マグワイヤとベティ・ウィリアムズの二人の女性が、「平和のための女性たち」や「平和な国民のための共同」を組織して平和創造に貢献した功績により、また、1998 年には、ジョン・ヒューム (社会民主労働党党首) が紛争解決への政治的努力によってノーベル平和賞を受賞しました。

第 9 回国際平和博物館会議は、ヴィジット・ベルファスト、自治体、大学などの協力で組織される組織委員会と INMP の共同で急ピッチで準備される予定ですが、**メイン・テーマやプログラムの詳細が決まり次第、日本会員の皆さんに発表申し込みや参加方法を含めてお知らせしたい**と思います。

日本事務局は、日本からの参加についても出来るだけ便宜を図りたいと考えています。